

完稱^ナ園墓^ナ稱^ナ壤^ナ是を介七云といふ又別忘
祠あり堂稱^ナ香然^ナ優婆塞^ナ稱^ナ角筈とを吹
浦村の大物と云ふ是は同一と云ふと云ふて
正月廿三の宮の日宮の刻より申の日申の
刻と七ヶ日の物とありて氏子頻月代を刺
らんと云ふと云ふ死人ありても七ヶ日の物ハ
葬礼を執りしを病をとらむ喪を吊りす
穢物をあらしむ冠婚の礼をも調へて社外
の男女と七ヶ日の物と知て七日の物と知る
さりと云ふ他は是れも事なりと云ふ二季の物

忌性古より当社よりいふなり故に大物
忌神社といふ稱しなり伊勢より大物
忌方といふあり潔祓して大物忌(事仕
の爲なり祭中になれん天幕をあれつてと
て日和ちる事稀なり西氏大物忌神社渡
しあふ(なりと云傳へり飛騨の風神
して小物忌神社と云傳へ風穀の二社共に
祓力をよりをあふと云傳もあれば西氏の
後にも謂ふことありと云ふ渡海しあふ事
を表しし事ありしや